

質実剛健

令和5年度 第4号
令和5年9月29日発行
佐賀県立三養基高等学校
編集・発行 広報研修部

今号では、夏休みから三養基祭までを取り上げています。養基祭がコロナ禍前を彷彿させる形で開催。合唱コンクールが復活。保護者の方も多数観覧いただきました。

文化祭 (9月5・6日)



体育祭 (9月7日)

写真 上 左: 2年生の模擬店 中央2枚: 1年生のクラス企画 右: 合唱コンクール
下 左: 白団 中央: 赤団 右: 青団&バックボード



【生徒会長 25HR 平 勇希 さんより】

皆さんこんにちは！生徒会長を務めさせていただいています、平勇希です。まず、この度養基祭に協力していただいた沢山の方々に感謝申し上げます。今回、私がこの養基祭を通して、「当たり前の大切さ」を感じました。今年度から合唱コンクールが再開され、マスクを外して養基祭を楽しむ生徒なども多くみられ、徐々にコロナ禍以前の日常を取り戻しています。「表情」はコミュニケーションにおいて一番重要なツールであり、みんなのいろんな表情がはっきり見られることはとても素敵で、かけがえのないことだと痛感しました。私たち生徒会はこの大切な日常を守るため、日々の生徒会活動に励んでいきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします！

☆☆☆ 団長へのインタビュー ☆☆☆

質問項目は以下の通りです。

Q1 団長を務めようと思った理由 Q2 実際に団を率いた感想 Q3 養基祭の一番の思い出 Q4 皆へのメッセージ
Q5 その他伝えたいこと

赤団団長 34HR 近藤 史都 さん ~紅蓮(ぐれん)~ 【34・21・24・11・12HR】

- A1 高校生活最後の大きなイベントで、みんなの記憶に残るような養基祭を作り上げたいと思ったから。
- A2 中学とは人数の規模が違い、なかなかうまくまとめることができず大変だったがとてもいい経験になった。
- A3 合唱コンクールの結果が発表されたとき。みんなで喜び合ったあの瞬間。一生忘れることはないと思う。
- A4 リーダーのみんなにはとても支えてもらった。ありがとう。赤団みんなのおかげで総合優勝ができた。本当にありがとう。
- A5 三高生のために、養基祭を開催していただいた方、協力、運営をしていただいた方ほんとうにありがとうございました。

青団団長 31HR 権藤 倫季 さん ~凌駕(りょうが)~ 【31・35・25・13・14R】

- A1 部活動で学んだリーダーとしての在り方を最大限に発揮し、全員がサイコーに楽しかったと思える養基祭を創り上げたかったからです。
- A2 常に時間との勝負でした。途中、本番間に合うか不安になるときもありましたが、みんなが真剣になって準備に取り組む姿を見て不安は自信に変わりました。
- A3 団対抗リレーで青団全員の思いが届いたとき。
- A4 各分野のリーダーが養基祭を成功させようと一丸になり頑張ってくれたおかげです。感謝しています！
- A5 グランドの整備をしてくださった先生方、運営をしてくださった生徒会役員の皆さん、応援してくださった保護者の方々、ありがとうございました！

白団団長 33HR 北原 隆磨 さん ~風靡(ふうび)~ 【32・33・22・23・15HR】

- A1 高校最後のイベントで楽しくて最高の養基祭を創りあげたいと思ったからです。
- A2 時間が足りず、大変なことも多かったけどその分やりがいも感じられてとてもいい経験になりました。
- A3 演舞賞の発表があったとき。みんなで喜び合ったあの瞬間はとてもいい思い出になりました。
- A4 副団長、応援リーダー、三年生をはじめ白団のみんなには感謝しかないです。本当にありがとうございました。
- A5 養基祭の準備、運営をしてくださった生徒会役員の方々、たくさんの方々に支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。

📺 学校行事の縁の下の力持ち「放送部」を Close-up! 📺

部長の 24HR 石川秀一郎さんにお話を伺いました。

今回僕たち放送部は、なんでも合戦の音声や養基祭PVの作成、体育祭の司会進行や音声を任せていただきました。特に大変だったのはPVを含めた動画四本の作成になります。準備自体は、夏休みの頃からしていましたが、完成はとてもしんどかったです。

放送部の活動は多くの人知らないと思いますが、学校行事や地域の活動などに積極的に参加しています。養基祭は放送部の活動の中でも最も忙しいものにはなりますが、その他多くの活動も頑張っているのに興味を持っていただくと幸いです。

最後に一言「なんだよ～。も～。またかよ。」と思いたくなるような日々を私たちは忘れません。

剣道部、インターハイで女子団体3位！玉竜旗で男子団体3位！

【剣道部監督 田原先生より】戦績につきましては、七月初旬に行われました全九州大会において、女子団体は中村学園に一本差という僅差で敗れ三位、女子個人では主将の嶋内さおりが準決勝まで進出し三位、男子団体は決勝トーナメントに進出しベスト8、男子個人では主将の北原隆磨がベスト8という結果でした。また7月下旬の玉竜旗では、男子団体が準決勝の舞台に進み、長崎南山に大将戦の末敗れ三位という結果でした。最大の目標である八月の北海道インターハイでは、男子団体は予選リーグを突破したものの、静岡県の浜名高校に惜敗し、ベスト16という悔しい結果に終わりました。しかし、三養基の意地を見せるべく女子団体が躍動しました。予選リーグから常勝軍団の中村学園との対戦で苦戦を強いられる状況でしたが最大限の準備で臨み、結果的に中村学園と引き分け、敦賀気比との勝数、本数の取り合いに勝利し、中村学園の七連覇を阻み予選を突破しました。準決勝は強豪守谷高校との激戦の末、代表戦となり延長戦で惜しくも敗れましたが、全国高校総体三位という結果を残すことができました。全国制覇には及びませんでしたが、全国の舞台で活躍する県立高校が数少なくなっている中で、佐賀県内の選手を主軸に全国の舞台で活躍することに生徒も誇りを感じていると思います。新チームとしての活動も始動し、また一から全国制覇を目指して稽古に励みます。今後のご期待にこたえられるよう生徒と共に邁進していきます。



【剣道部を代表して、33HR 嶋内さおりさんより】「日本一」簡単になえられる夢ではない。この一年、メンタル、技術、チーム力、人間性全てにおいて限界を、そして先輩方を越えなければ希望はない。そう思い必死に稽古してきました。5月県総体優勝。みんなでつないだ日本一への挑戦の切符を絶対に無駄にはしないと心に決め挑んだ最後のインターハイ。結果は3位。

悔しくて申し訳なくて涙が止まらなかった。でも今までやってきたことは間違いではない。日本一には届かなかったけど3位という結果を残せたのは、この仲間、この監督、この三養基高校だったから。そし

ていつもサポートしてくれた保護者様、応援して下さった皆さんのおかげだと思います。これからは後輩たちがこの思いを継ぎ日本一を目指します。これからも三養基高校剣道部をよろしくお願いいたします。

陸上部、32HR 和木田翔さんよりインターハイ出場報告！

人との繋がりがって大事なとインターハイを振り返って改めて思いました。

私は、棒高跳びを始められたのは外部コーチが棒高跳びを紹介してくれたからでした。ですが教えてもらえる先生が佐賀県にいらっしゃらずほぼ独学で棒高跳びを練習してきました。3年生になり他県の友達と一緒に練習をしたり練習会に呼ばれたりするようになり、技術力はどんどん上がっていきました。そこから人との繋がりとこのことを大切に感じ始めました。記録的にはあまり大きく結果が出たわけではないのですが、棒高跳びに関する知識は圧倒的に増えたので、それを生かし大学でも陸上・棒高跳びをやりたいと思います。

～鹿児島総文祭を振り返って～

【吹奏楽部 35HR 俣野葉奈さんより】

私たち5名は8月1日に行われたかごしま総文祭に佐賀県の代表として出場しました。普段と違う環境で、先生も周りの人たちも違う中での練習は、不安もありましたが、毎回の練習は新鮮でとても楽しかったです。また、他校から選ばれた人たちとの練習は、学ぶことがたくさんあり、とても刺激になりました。本番は、自分も感動してしまうほどの素晴らしい演奏ができました。他の県の高校の演奏を実際にみて迫力がすごく、勉強になることもありました。この経験は、自分にとって、とても大切な物になりました。



【書道部 34HR 増田友愛さんより】

作品紹介・・・呉昌碩（ごしょうせき）特有の躍動感ある回転運動や鋭い線に魅力を感じ、臨書に挑戦しました。素早い運筆と懐を大きく構える線を用いることで、作品全体の緩急や余白の美しさ、立体感等を表現しています。中でも見せ場である2行目の「到」という字は、迫力や冴えを意識し、何度も練習を重ねたので注目して観ていただけたら幸いです。

審査講評・・・文字の大小、墨の潤濁、遅速の変化など、流れと骨力を表現した作品。

感想・・・全国から来たたくさんの人と交流し、知識や理解を深めることができました。特別賞を受賞でき、本当に驚きました。作品制作を支えてくれた先生方や部活動の仲間、家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

♪インターハイ、総文祭お疲れ様でした。今後も皆さんの活躍を期待しています♪

